

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く (77) (HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(77)—

1. 始めに

前報(76)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。今回も Crystal E に 10000F の電解コンデンサーを連結しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も交響曲です。

EMI EAC-40046

モーツアルト 交響曲第 33 番変ロ長調
歌劇「皇帝ティトゥスの慈悲」序曲
交響曲第 34 番ハ長調
歌劇「後宮からの逃走」序曲

オットー・クレンペラー指揮ニューフィルハーモニア管弦楽団
フィルハーモニア管弦楽団

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

東芝 Angel (EMI) 盤ということで、EMI、逆相、第 4 時定数 Low で聴いていきます。

交響曲第 33 番変ロ長調と歌劇「皇帝ティトゥスの慈悲」序曲は、ニューフィルハーモニア管弦楽団の演奏、交響曲第 34 番ハ長調と歌劇「後宮からの逃走」序曲は、フィルハーモニア管弦楽団による演奏で、ともにクレンペラーの指揮で 1963 年から 1965 年にかけての Abby Road Studio での録音です。

指揮と収録場所が同じであるせいか、ニューフィルハーモニア管弦楽団は細身の音で爽やかな演奏で、フィルハーモニア管弦楽団もよく似ていますが、もう少し響きが豊かな感じですが、また、双方とも交響曲とオペラの序曲が対になっていますが、オペラの序曲の方が、これから始まるオペラへの期待感をそそるような演奏になっています。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレイク、Crystal Eなどの総合的な効果として、指揮と収録場所が同じであるせいか、ニューフィルハーモニア管弦楽団、フィルハーモニア管弦楽団の双方の音質面の特徴や交響曲とオペラの序曲の演奏スタイルが把握できました。

以上